

学校教育目標	○ やさしく(徳) ○ 強く(体) ○ よく考え(知) 手をつなぐ拝島の子	【目指す学校像】	○ 生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○ 安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○ 動きがいのある学校(教職員にとって)
		【目指す児童・生徒像】	○ 心身ともに健康な子 ○ 主体的・対話的で深い学びのできる子 ○ 互いに認め合い高め合う子
		【目指す教師像】	○ 教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策	
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行うとともに、「個別最適な学び」「協同的な学び」の実現を目指す。	授業改善、評価の工夫、カリキュラムマネジメントの実施と、個別最適な学び、協同的な学びを目指す指導への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 評価を明確にした学習の展開 児童の主体的な学びを実現 教科横断的、問題解決的な学習 児童の実態把握、学力調査の分析、授業改善プラン作成・実践 	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答	4	授業に主体的に参加していると感じた児童は95%だった。前回より1ポイント向上した。子供たちは、一生懸命学習に取り組んでいることが分かる。教員の評価も、0.7ポイント向上した。学力調査を基にした授業改善プランの作成を夏休みに行い、2学期に実践したことで、教師の評価も高まったことが分かる。	A	引き続き、児童の主体的な学習を進めるため、学年ごとの具体的なイメージを共有する。また、児童の様子に合った、個別最適な学習、仲間と協力して行う協同的な学習について推進していく。		
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答						
		基礎的基本的な学力を身に付けるための取組の提案と実施	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の自主的な取組習慣化 読書週間の取組の工夫 学習スタンダードの取組の徹底 家庭学習の内容の工夫と習慣付け 	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が身に付いたと回答	3	朝学習や家庭学習の習慣は身に付いたと感じた児童は、82.5%だった。前回より1.6ポイント向上した。朝学習は定着しているが、家庭学習が不十分な児童が目立つ。教師の評価は、0.4ポイントの向上したが、学習習慣の定着について、一部の児童の指導が難しいことが分かる。	B	子供たちは身に付いたと感じているが、市のアンケートによると、スマートフォンでゲームをする時間が長い。家庭の協力が必要である。		
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が身に付いたと回答						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が身に付いたと回答						
		特別支援教育の視点を生かした環境整備の充実、授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導及びUDを意識した学習展開 UD意識した学習環境の整備 困り感をもつ児童への対応 保護者との共通理解 	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が授業が分かると回答	3	授業が分かりやすいと感じた児童は、97.5%だった。前回より、3.2ポイント向上した。教員の評価は0.2ポイントの向上に留まっている。子供たちの学びの意欲に支えられた結果となった。教師との信頼関係はよいと感じられる。困り感をもつ児童に対する指導に迷っていることが分かる。	4	先生が工夫してくれていることが分かる。メリハリのある、楽しい授業をさらに工夫してほしい。	A	子供たちの主体的な学びを中心とした授業について、教師の学び合いの場を設けていきたい。また、家庭学習においても、スタンダードを作るとともに、高学年では児童の主体的な課題設定にも取り組むたい。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が授業が分かると回答						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が授業が分かると回答						
		豊かな心	自分も仲間も大切に、お互いのよさを認め合い、相手の思いやる心を育て、楽しい学校生活を実感し、自己の生き方を深めることのできる児童の育成を目指す。	道徳授業の質の向上を図り、自ら考え、日常生活に活かし、互いに認め合う児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> よさを認め、互いに必要とされる実感がもてる学級経営 価値を明確にした授業と児童の変容の見取り(評価の工夫) 年間計画の確実な実施 全教育活動に関連付けた指導 	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が大切さを学ぶことができた	4	自分や友達を大切にできたと感じた児童は99.2%だった。前回より、1ポイント向上した。教員の評価は、0.5ポイント向上している。ふわふわ言葉月間やふれあい月間での取組に手応えを感じていることが分かる。また、学級会での話し合い活動も効果を高めているように感じられる。	A	道徳の学習の意義を明確にし、子供たち自身が自分と向き合い、行動を振り返ることのできる時間となるよう、学び合っていきたい。日常の言葉遣い、仲間とのよい関わりを高めていきたい。
						3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が大切さを学ぶことができた				
						2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が大切さを学ぶことができた				
いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気付き対応し、安心して通える学校運営の実現	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育プログラムの活用 生活指導夕会での情報共有と素早い対応、報連相の徹底 いじめアンケートの確実な実施と日常からの未然防止と早期対応 ふれあい月間の取組 			4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が判断できた	3	よいことと悪いことの判断ができたと感じた児童は96.2%だった。前回より4.8ポイント向上した。教員の評価は、0.3ポイント向上した。生活指導夕会での情報交換や、児童のトラブルについての対応を全体で共有していったことで、児童も教師の意欲が向上したことが感じられる。	4	善悪の判断が自分でできると感じている児童が多さに驚いた。実際に判断できているかは別にして、自己指導能力の高まりをこれから目指してほしい。	A	児童がより楽しく学校生活を送れるように、自ら考え、判断して行動できるよう、具体的な指導を行う。特に学級内での自己有用感が高まるように、役に立っている、支え合っていることを実感できる取組を進めていきたい。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が判断できた						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が判断できた						
人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊心や自己有用感を高める実践への取組	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーによる学び 実践、体験活動の充実 栽培体験活動の実施 縦割り班活動の充実 			4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答	3	縦割り班活動や栽培活動は楽しいと感じた児童は87.5%だった。前回より5.6ポイント減少した。理由は、コロナウイルス感染防止で縦割り班活動が行えなかったこと、栽培活動も夏まで終了したことと考えられる。教員の評価も、0.1ポイント減少した。	3	コロナウイルス感染防止の対応で仕方ないと思う。今後は感染防止対策も緩やかに改善する方向にだと思つて、関わられる機会を増やしてほしい。	C	児童にとって、外部の方との交流は、学ぶ意欲を高め、学びの深まりにつながる。次年度は、地域の方との交流を再開していきたい。また、縦割り班活動や栽培活動も大切な体験活動として力を入れていきたい。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答						
健やかな体	健康で安全な生活について自ら考え、仲間と協力して実践しようとする児童の育成を目指す。			心身ともに健康で、安全に過ごすために、自己管理のできるたくましい児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> グッドモーニング60分の取組 いきいきカードの取組 安全、防災教育の確実な実施 チャレンジ精神、ルール尊重、フェアプレーの大切さを指導・実践 	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が安全健康についていかすと回答	3	安全や健康について学んだことを生活の中で活かしていると感じた児童は88.3%だった。前回より1.6ポイント減少した。教員の評価も、0.1ポイント減少した。2学期におけるグッドモーニング60分の取組や、安全や防犯に関する取組が不十分だったことが原因と考えられる。	C	スマートフォンを使ったゲームやSNSの利用に関することは、家庭がしっかり管理してほしい。ただ、親子の関係が心配である。良好な関係をつくってほしい。
						3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が安全健康についていかすと回答				
						2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が安全健康についていかすと回答				
		一人一人が自らの体力を知り、自分に合った方法を考え、体力向上に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> めあてが明確な学習の展開 元気アップガイドブックを利用した、体力運動能力調査の分析と、具体的な取組の推進 体育朝会の取組と授業での活用 ミニ研修会の実施と活用 	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が体力付いていると回答	3	体力がついていると感じた児童は88.4%だった。前回より6.7ポイント向上した。教員の評価も0.7ポイント向上した。ミニ研修会の成果や、めあてを明確にした指導を進めることで、児童の体力が向上の意識が高まったと考えられる。	3	持久走や縄跳びの取組ができてきたようになっている。家にばかりこもっていない、外で体を動かす機会を増やしてほしい。	A	体力運動能力調査の結果から、元気アップガイドブックを活用する取組や、挿しピックの見直しを行った。体育朝会の指導を工夫したりして、子供たちが意欲的に体を動かす環境づくりに努める。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が体力付いていると回答						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が体力付いていると回答						
		食の大切さや健康について学び、自らの健康について考えることのできる取組	<ul style="list-style-type: none"> お弁当の日で自ら考え取り組む 保健指導から、自分の体についての学び 健康教育(性犯罪等)への取組 外部人材を招聘しての交流や講話や実技指導の取組 	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 80%以上の児童がお弁当の日工夫できた	3	お弁当の日を工夫したと感じた児童は82.2%だった。前回より0.8ポイント減少した。教員の評価は0.7ポイント向上した。保健指導の充実や、外部講師の活動が再開できたことで、教師の評価が向上したと考えられる。	3	家庭の協力を得て取り組んでいることがよい。学校でも残菜が減らせるような取組を頑張してほしい。市の栄養士さんにも指導を頑張してほしい。	C	食の大切さについては、今後もお弁当の日の取組以外にも取り組んでいく必要がある。市の栄養士の指導等を検討したい。
				3 3項目は取り組むことができた		3 75%~80%未満の児童がお弁当の日工夫できた						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~75%未満の児童がお弁当の日工夫できた						
		輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	学級会活動をはじめ、全教育活動における、キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活への適応 仲間づくり、集団の結束 自らの役割の自覚 年間指導計画に応じた、キャリア教育実践の充実(キャリアアルバムの活用) 	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答	4	生活を振り返りよりよくなったと感じた児童は90.2%だった。前回より2.6ポイント向上した。教員の評価も0.2ポイント向上した。昭島市の作成したキャリアアルバムを活用し、各学期ごとの目標作成、学期末の振り返りを行うことや、学級活動の充実を図ったことで、満足感が味わえたと考えられる。	A	引き続き学級活動についての研究を進め、自らの生活を見直し、自らの学校生活をよりよくするために、主体的に考える児童の育成を回していきたい。また、キャリア教育についても、引き続き取り組んでいきたい。
						3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答				
						2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答				
幼・保・小・中の連携について、効果的な方法を検討し実践する。	<ul style="list-style-type: none"> スタートカリキュラムの理解と推進 年3回の中学校区計画的な交流活動 小中連携の具体的な方策の検討・実践 幼・保との連携、交流活動 			4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が自分の得意なことを考えると回答	3	自分の得意なことを考えると答えた児童は、85.4%だった。以前より、1.5ポイント減少した。教員の評価は、0.4ポイント向上している。本年度より小中連携が実施されたことが向上の理由だと考えられる。また今後、幼保小の連携を回っていく予定である。	3	不登校が増えている原因は何か、一人一人の子供の想いを大切にしたい。保護者の悩みにも耳を傾け、関係の機関と協力して対応してほしい。	B	児童の自己肯定感を高める取組を充実させるためにも、本年度から取り組んでいる、「誰かの役に立つ」という活動をさらに進めることで、まずは自己有用感を高めていきたいと考えている。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答						
地域とのかかわり、ICT活用した世界とのかかわりを意識し、持続可能な社会づくりを意識した取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材や環境を活用した学習 タブレット端末の積極的な活用 SNS家庭ルールの普及と、情報モラル教育の充実 環境をはじめとするSDG'sを意識した活動 			4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 90%以上の児童が地域の方とのふれあいができた	3	地域の方との交流については、94.8%の児童が肯定的に捉えている。前回より4ポイント向上した。教員の評価は、0.5ポイント向上した。コロナ禍で地域の方との交流はなかなかできないが、稲作体験ができたため、向上したと考えられる。また、タブレットの活用についても研修を通して進められたことも要因の一つだと考えられる。	4	生徒指導要領には、生物学的・心理的・社会的な観点から子供を見ることが大切と示されている。社会的な立場環境を考えた使えるツールとできるよう、研修・実践を進めていきたい。	B	本校の特徴でもある地域の方との交流を再開し、より地域を意識した学習を推進していきたい。タブレットの活用についても、引き続き学習で使える先生が増えるように、研修・実践を進めていきたい。
				3 3項目は取り組むことができた		3 80%~90%未満の児童が地域の方とのふれあいができた						
				2 2項目は取り組むことができた		2 70%~80%未満の児童が地域の方とのふれあいができた						